



静岡県ソフトボール協会
発行部数 3,450 (季刊)
発行/静岡県ソフトボール協会
(掛川市中央1丁目10番9号)
発行責任者/竹山 裕
編集責任者/片多 泰
FAX 0545 (21) 4491



高木執行部が誕生
平成十八年度活動スタート

二月二十二日開催された平成十八年度の理事・評議員総会で向こう二年間の役員紹介が行われ、静岡支部の高木英夫氏が理事長となつた、新しい執行部の下で行事運営を行う事となった。
競技力向上を担当する副理事長には、浜松支部の鈴木勲氏(技術委員長兼任)、財務部長には焼津支部の小保方精一氏が就任。なお、前理事長の栗原貞秋氏は副会長に就任。
本年度の事業は第二回都道府県対抗中学生大会(富士宮市)・ジ

ヨイフルスローピッチ大会(富士市)、ねんりんビックソフトボール競技大会(掛川市)などの三つの全国大会と日本女子リーグ二部の第一節(浜名湖)第五節(牧之原市)および三つの東海地域大会・三十三の県大会が開催される。(県大会等の日程は四面参照)
マ十八・十九年度役員
○は新任
【会長】竹山 裕(静岡)
【副会長】塩澤實蔵(富士宮) 増田正史(静岡) 森泰二郎(磐田)
【理事長】高木英夫(静岡)
【副理事長】市川初司(御殿場) 松下静雄(磐田)
【技術委員長兼務】浜松 〇高山良文(浜松) 松島俊一(浜北)
【藤原西浦壽容(浜松)
【常任理事】齊藤敏雄(審判委員長・裾野)
【審判委員長】裾野 忠(記録委員長・長泉)
【記録委員長】長泉、石山忠理子(放送委員長・掛川)
【鈴木新

平(障害委員長・藤枝、松浦恵千(指導者委員長・島田)、白鳥 優(トレーナー委員長・静岡)、落合高司(男子リーグ委員長・島田)、安本秀樹(女子リーグ委員長・清水)
〇児島洋美(少年委員長・御殿場、天野和博(中体連・藤枝)
〇鈴木広隆(高体連・富士宮)
〇遠藤正吾(普及委員長・富士)
片多 泰(広報委員長・富士)
多田 晟(総務部長・藤枝)
森淳美(庶務部長・三島)
石上和彦(渉外部長・清水)
〇小保方精一(財務部長・焼津)
原 木 忍(規約・登録検討委員長・裾野)

町村合併の産物
菊川・御前崎・吉田・牧之原支部が誕生
市町村合併に伴い、椋南支部と小笠支部の解体と改名が行なわれた。結果、県協会として支部は二十八支部となった。
椋南支部の椋原町は相良町との合併により牧之原支部に、吉田町は単独の吉田支部、小笠支部の浜岡町は御前崎町との合併で御前崎支部、小笠町は菊川町との合併で菊川支部、大東町は掛川支部に編入となった。

理事長あいさつ
新任
高木新理理事長
退任
栗原前理事長
総長の任に就き理事長を外れましたが、永きに亘り県協会・各支部の皆様を支えられ無事任務を全うすることができました。
この十二年間を振り返って、印象に残ったことは県ソフトボール場の建設と、柿落としとして開催した、十七の国と地域が参加した、シドニーオリンピックの出場権を争った、第九回世界女子選手権大会開催のため、大会事務

原点に戻ろう！走って、良い位置で、止まって！
審判・記録伝達研修
シーズン開幕を告げる平成十八年度の審判・記録伝達研修会が掛川市つま恋で開催された。研修会には審判・記録員および役員やチーム関係者・選手など一五三名が参加。今年度は原点に戻り、良い位置に速く、足を止まらず、二日間基本動作と審判技術の再確認を行った。
一方、記録委員会は例年のビデオ研修での

理事長就任の推薦を受け、戸惑いを感じましたが、ソフトボールに携わった四十年間たくさんの方々から勉強させていただいた事を

福に、自分自身のカラーを出しながら職務を務めていきたいと思っております。
まず、第一に組織の改革と財政の健全化です。現在支部組織の存在が危ぶまれている所が何支部かあります。また、十七年度単期決算では赤字だった財政の改善策については、今後皆さんのお知恵とご協力をいただきながら進めていきたいと思

技は若者から高齢者までプレーするメジャースポーツになっていますが、見るスポーツとしてみても、今年度は各大会運営を通じて、「開催地の固定化」を誇りたいと思っております。
一方、日本女子リーグ一部は県協会主管を基本に、諸事情を勘案し可能な限り毎年開催したいと思っております。
現在ソフトボール競

た結果であると同時に、私を支えてくれた皆さんのおかげと、巡り合った人生の運命のひとつだと感謝しています。
また、任期中には多くの日本リーグや全国大会を各支部のご協力により、素晴らしい成果を挙げ、静岡県ソフトボール協会の名声を高めていただきました。素晴らしい仲間、組織に恵まれ幸せ

し、全国レベルへと引き上げたい。特に団体については「東海の壁」を破り四種目全てで本大会出場を目標にそれぞれの委員会を中心に、チーム、選手が一丸となって取り組む必要があり。
栗原前理事長のように精力には助けませんが、自分なりに頑張りますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

ソフトボール美人



彼女が始めたのが町内小学生大会だった。

「小・中学生の子どもたちが夢を追えるようなソフトボール競技にするための環境作りが必要」とサンバイザーの下の瞳が訴える。ロンドン五輪からソフトボール種目が消えることへの寂しさからか。彼女自身ソフトボールを始めたのが町内小学生大会だった。

中学・高校とプレーを続け、卒業後、日本女子リーグを目指し松下電器でプレー。それだけに次を担う子とばかりに目が行くのだろう。高校・実業団の選手時代「厳しいスポーツ」との認識が強かったソフトボール競技を、楽しいものへと引き寄せたいの思いから、実業団を引退後、母校・磐田東高と磐田北高の

ソフトボールOGを中心としたクラブチーム「MAGICAL」を結成。小学生から続けている投手のポジションとコーチを担当。仲間と競技を楽しんでいる。
「娘が小学二年生なので現役を引退し、指導者に回りたい」と漏らす一方で、チームの主戦投手・兼コーチとしての責任感が揺れ動いている。(片多)

松下美穂選手(MAGICAL・磐田)



審判・記録伝達研修
シーズン開幕を告げる平成十八年度の審判・記録伝達研修会が掛川市つま恋で開催された。研修会には審判・記録員および役員やチーム関係者・選手など一五三名が参加。今年度は原点に戻り、良い位置に速く、足を止まらず、二日間基本動作と審判技術の再確認を行った。
一方、記録委員会は例年のビデオ研修での

